

益城の文化財

かぐら しゃ 広崎の神楽社

— 広崎 —



近年、改修整備された広崎の神楽社

広崎公園から150mほど南下すると、広崎の神楽社があります。この神楽社は、広崎地域の氏神となっています。

祭神は、日本の国造りの神であり、五穀豊穡をつかさどる自然神の「伊弉諾尊」「伊弉冉命」とされています。

この神楽社は、もともと広崎の北原地区に「カクラノ上」と呼ばれる地区があり、この付近にあった神社が、地域の人々の居住域が「居屋敷」に移ったことから、現在の場所に移されたと考えられています。その時期は不明ですが、集落の人々が自然神を招き、神が当地域に降りられたと伝えられています。

現在、神楽社には大きな自然石があります。この石こそが神が降りられた石で一般的にいわれる「影向石」であり、鎌倉末期から室町時代にかけて成立した「山王信仰」があったと思われる。

神楽社の建築様式は弥生時代ごろからの「高床式」です。

『郷土史広崎』によると、御神体のそばに、神楽社の祭座の帳として、元禄7(1694)年以降のものが保存されているといわれています。

例祭は9月29日、6つの組があり、それぞれに節頭渡しの座祭りがおこなわれています。

参考文献「益城町史 通史編」

益城町文化財保護委員会

俳句

早川宏次 選

秋雨に一滴転ぶ葉のありて
つむじ風巻いて枯葉の露天風呂
街波も茜にそまりいそぎ足
焼鮎の臭い誘われヤナ場かな
赤蜻蛉群れ飛ぶ空は茜色
酣の秋に去りいく虫の声
紅葉舞い子猫踊りて日もすがら
朝明けに山の彼方に飛行雲

惣領 小森英美子
下陳 城 陶子
惣領 新居 露子
惣領 阪口 基明
広崎 松原まゆみ
木山 増岡 伸禧
宮園 田島 安代
惣領 阪口由美子

狂句

田上富岳 選

それつきり 何の知らせも来んだった
それつきり 金を持たんとわかったら
それつきり 財産分けにや来とらした
それつきり セビリの孫が来まつせん
それつきり 酒も女も縁切らす
まだ先の話 捕らぬ狸にならんどか
まだ先の話 義務教育も終えとらん
まだ先の話 裏も表も分るのは
まだ先の話 おつな譲るにや若過ぎる
まだ先の話 末は総理の夢見らす

広崎 松原まゆみ
惣領 小森英美子
惣領 阪口 基明
宮園 岩本よろく
木山 増岡 酔粹
宮園 井藤 吉郎
惣領 新居 露子
宮園 永瀬 美波
寺迫 左 喜樹
木山 増岡 酔粹

狂句次号の課題 「せからしか」「また来年も」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。